

ソフト施策による渋滞緩和の試み

栃木県 県土整備部 交通政策課

1. ソフト施策による社会実験

栃木を代表する観光地『日光』や『那須』では、例年行楽シーズンに集中するマイカーにより、激しい渋滞が発生しております。渋滞は、観光に訪れた多くのお客様の貴重な時間を無駄に浪費する事となり『栃木ブランド』に悪影響を及ぼしかねません。また、渋滞車両から排出される排気ガスが環境に大きな負荷を与えることとなります。この状況を改善するため、これまでに様々な対策を検討してまいりましたが、『日光』『那須』は急峻な山岳地であることから、新たな駐車場造成や道路の拡幅などのハード整備は、多大なコストが必要になるとともに、豊かな自然環境や景観への影響も計り知れません。このため、既存道路ストックを有効に活用しながら『交通規制』や『パーク&バスライド』などのソフト施策による社会実験を実施し、渋滞緩和の効果を測定しました。

2. パーク&バスライド社会実験について

那須高原地域では、紅葉シーズンの10月9日～11日の3日間に那須高原のふもとに設けた4つの特設駐車場からシャトルバスに乗り換え那須山頂方面に向かう『パーク&バスライド社会実験』を実施しました。この社会実験は、地元那須町と栃木県及び観光協会等で作る那須高原地域活性化推進協議会（会長森本章倫宇都宮大学准教授）で検討を行ってきたものです。実施期間中は、午前6時から午後4時まで大丸温泉から山頂までのマイカーの乗り入れ禁止と、旧那須高原有料道路の通行方向を規制し、バスの定時性を確保しながらお客様を送迎しました。

訪れるお客様の状況は、台風18号による強風の影響もあり、当初の予定よりやや少ない状況でしたが、3日間で延べ7,668人のお客様にバスをご利用いただき那須山頂周辺の紅葉を堪能いただきました。この実験により、実験日3日間を通じ旧那須高原有料道路内の渋滞はほぼ解消され、通常の行楽期に旧湯本料金所から山頂まで74分かかるところを26分で移動でき、温室効果ガスの発生量を約40%削減できた等、様々な効果があることが確認できました。またお客様へのアンケートを

那須高原地域パーク&バスライド社会実験の状況写真



マイカーからバスへ乗り換えます。



大丸駐車場で山頂行きのバスに乗り換えます



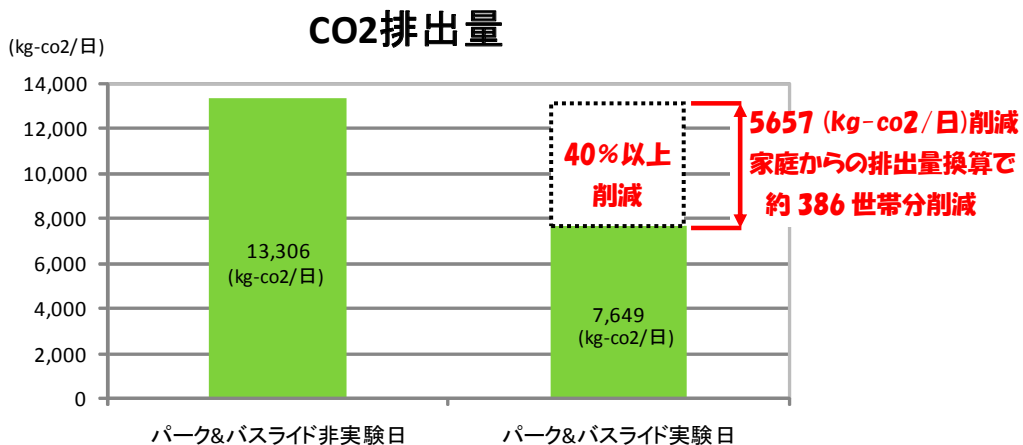
パーク&バスライドを実施しない日には路上駐車が発生し激しい渋滞となりましたが、実験日にはマイカーからバスに転換し確実に山頂に迎えました。

実施したところ、74%の方がパーク&バスライドによる移動のしやすさについて普通もしくは満足とお答えいただき、渋滞の影響を受けず『確実に山頂へいける』ことや『環境保全のため今後も続けるべき』とのご意見をいただきました。一方でパーク&バスライドの事前PR不足や、駐車場が遠方で案内誘導が不十分であったことから多くの苦情も寄せられ、改善しなければならない課題も見えてきました。今後は地元関係者の意見を反映し、必要な改善を加え、本格導入に向けた検討を進めていく予定です。

パークアンドバスライド社会実験の実施による効果測定結果

○CO2削減！ 地球温暖化防止に寄与

パーク&バスライド社会実験の実施により、CO2 排出量が40パーセント以上削減されました(試算値)。今後は更に効率的なP & BR手法を検討することによって、より多くの環境負荷の軽減を目指します。



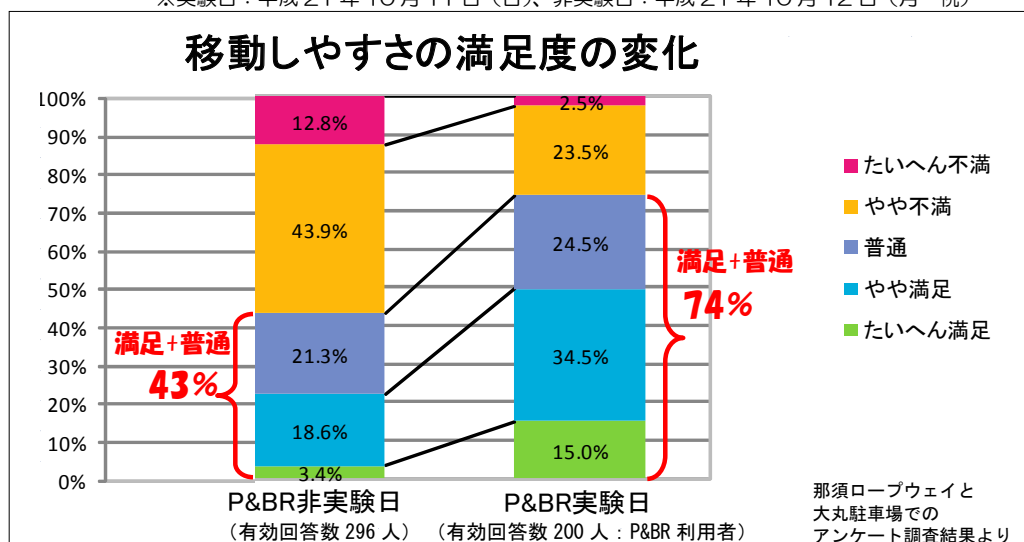
○観光客の満足度向上！

パーク&バスライド社会実験の実施により移動しやすさについての満足度が大きく向上しています。

パーク&バスライド非実験日 <満足+普通の割合：43%>

パーク&バスライド実験日 <満足+普通の割合：74%>

※実験日：平成21年10月11日(日)、非実験日：平成21年10月12日(月・祝)



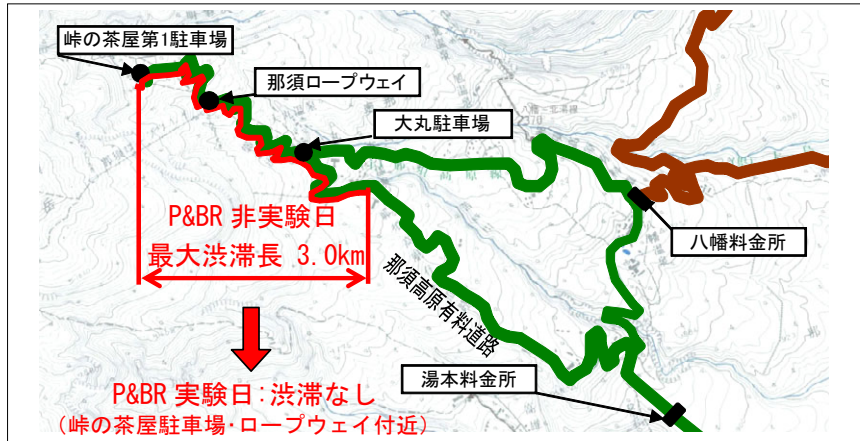
○渋滞解消！

例年紅葉時期には峠の茶屋駐車場やロープウェイ付近では激しい渋滞が発生しておりましたが、パーク&バスライド社会実験の実施により渋滞が解消されました。

パーク&バスライド非実験日 <峠の茶屋駐車場から渋滞 3.0km>

パーク&バスライド実験日 <峠の茶屋駐車場・ロープウェイ付近：渋滞なし>

※実験日：平成 21 年 10 月 11 日（日）、非実験日：平成 21 年 10 月 12 日（月・祝）



○時間短縮！

山頂方面への所要時間で比較すると、パーク&バスライドのバスに乗車することにより、湯本料金所から峠の茶屋駐車場間で、約 50 分の時間短縮が図られました。



※1:平成21年10月11日の10時台の湯本ルート1（体育館跡地）のP&BRバスに乗車して測定
（体育館跡地まではマイカーにより走行、体育館跡地でバスに乗り換え）

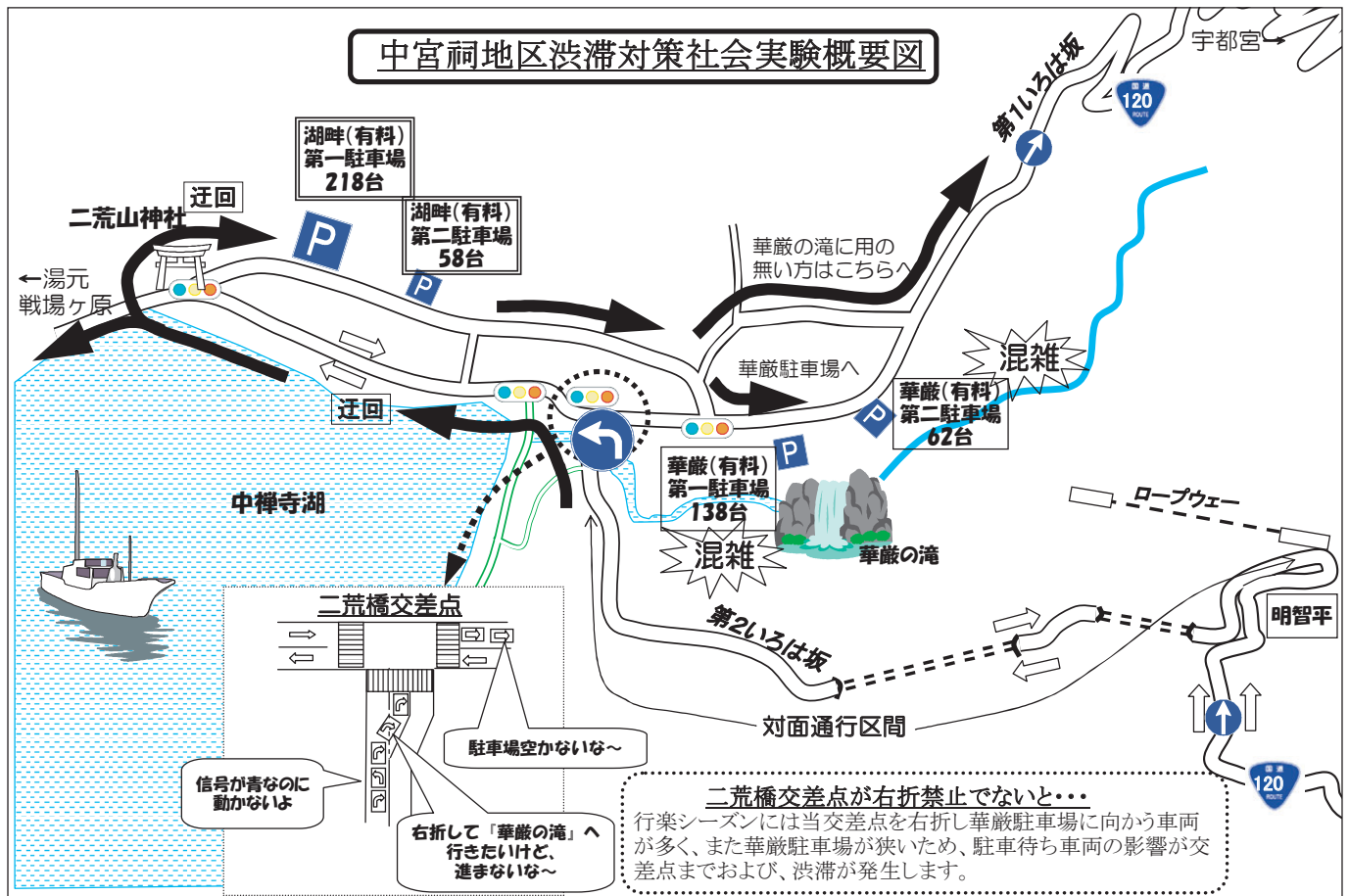
※2:平成21年10月12日の10時台のマイカーによる走行時間調査より。

※:山頂方面への需要は実験日のほうが多い

（広谷地交差点北側上り交通量は実験日：8,339(台/12h)、非実験日：7,187(台/12h)）

3. 交通規制による渋滞緩和の社会実験について

日光中宮祠地区において紅葉のピークを迎えた10月31日～11月3日の4日間、交通規制による渋滞緩和の社会実験を実施いたしました。この実験は、地元日光市と県及び地元関係者で構成する中宮祠地区交通対策協議会（会長宇都宮大学永井護教授）が実施したものです。第2いろは坂を上がり中宮祠地区の玄関口である二荒橋交差点は、右折方面に華嚴の滝、左折方面に中禅寺湖・湯元温泉と交通の分岐部であります。華嚴の滝付近の駐車場待ち渋滞が二荒橋交差点まで伸び、交差点通行を阻害することが、第2いろは坂渋滞の要因の一つとなっております。このため、交差点の右折禁止規制を行い一旦左折方向に進んでいただき中禅寺湖の前を通り二荒山神社前から華嚴の滝方面へ向うように誘導することにより、通行の円滑化を図りました。このことにより、華嚴の滝へ向うお客様に迂回をお願いすることとなりましたが、迂回路の途中にある比較的空いている湖畔駐車場も案内することができ、全体として駐車場の分散化が図られ、第2いろは坂や中宮祠地区の渋滞が緩和されました。今年の実験は、紅葉のピークを過ぎていたこともあり、例年より若干少なめの交通量でありましたが、通常時に比べ第2いろは坂の最大渋滞長が約7割減少し、通過時間も約8割短縮されたことが確認されました。また駐車場の分散化も図られ、交通量が少ない状況にもかかわらず、中宮祠地内を歩くお客様も通常時に比べ約2.8倍に増え中宮祠地区に賑わいが生まれました。この社会実験は『スイスイのんびり奥日光』のキャッチフレーズのもと多くのお客様に国際的な観光地日光を満喫してもらえるよう、引き続き取り組んでいく考えです。



中宮祠地区渋滞対策社会実験概要図

日光中宮祠地区社会実験の状況写真



行楽シーズンにおける第2いろは坂の渋滞状況



社会実験により、二荒橋交差点の渋滞は緩和されました。

4. おわりに

これまでの渋滞対策は道路拡幅や駐車場整備などハード整備を中心に実施してきました。しかし本格的な少子高齢化社会を迎えコストの大きいハード整備をこれまで通り推進することは困難となっており、効率的かつ効果的に様々な課題に素早く対応していくためには、ソフト施策を併用していくことも必要となっており、今回の社会実験の結果を踏まえ、低コストで持続的な観光地の渋滞対策が導入できるよう更なる改善を進めていく予定です。